平成25（2013）年2月1日発行

伊勢市立小俣図書館

図書館だより　2月号

ベリーくん　いちごちゃん

〒519-0505　伊勢市小俣町本町２番地　（電話）0596-29-3900（FAX）0596-29-3902

小俣図書館　図書館行事　ごあんない

おはなし会　１階・おはなしのへや

2月　9日（土）　たんぽぽおはなし会、午後３時～
2月 17日（日）　ピッポの会・紙芝居、午前１１時～

★「赤ちゃんおはなし会」　1階・おはなしのへや

2月 14日（木） 午前11時～

★ 図書館おはなし会＆工作

〈1 階・おはなしのへや〉

（日時）　2月 23日（土）午後３時～
（対象）　３歳～小学生（就学前の子どもは保護者同伴）
（内容）　おはなしを読んだ後、おひなさまを作る工作をします。

◆上映会　２階・視聴覚室

2月 16日（土）　午後２時～

「海上保安官が見た巨大津波と東日本大震災復興支援」

《１１８分》

海上保安官が目の当たりにした東日本大震災での津波の様子と、その後の復興支援の様子です。

※おはなし会、上映会の事前申込みは不要です。

開館時間　午前９時～午後７時

休館日　毎週火曜日、第２金曜日
年末年始、特別整理期間

貸出　１人１０冊２週間以内（うち雑誌は５冊まで）
　　１団体５０冊１ヶ月以内（うち雑誌は２５冊まで）

小俣図書館カレンダー

２月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

３月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

マナーアップ月間

期　　間：2月9日（土）～18日（月）
展示場所：1階：児童コーナー

★「としょ子は見た！？　図書館のある１日の出来事」展示

図書館に住んでいる私としょ子がある日の出来事を例に、図書館利用のマナーを紹介します!!

★汚損・破損した本の展示

汚損・破損によって修理が必要になった本や、貸し出しできなくなった本を展示します。

伊勢市立伊勢図書館　№132　平成25(2013)年２月１日発行

図書館だより　2月号

（編集・発行）伊勢市立伊勢図書館　指定管理者／株式会社 図書館流通センター　（住 所）〒516-0076　伊勢市八日市場町 13-35
（電話）0596-21-0077　（FAX）0596-21-0078　（ホームページ）http://iselib.city.ise.mie.jp/

えほんのよみきかせ、かみしばい などをやっています。

「おはなし会」

《日時》毎週土曜日 午後２時 30 分～
《場所》１階・おはなしコーナー
２月２日／おにいさん、おねえさん による おはなし会
２月９日・16 日・23 日
　　／おはなしプーさん による おはなし会

「あかちゃんえほんのじかん」

《日時》２月 28 日（木）　午前 11 時～
《場所》２階・視聴覚室
《内容》あかちゃんむけの絵本の紹介や、手あそびなどをします♪

あかちゃんえほんのじかんは、毎月第４木曜日です。

「施設抽選会（4月～6月分）」

《日時》２月１日（金）午前 10 時～
（受付開始：午前９時 50 分～）
《場所》２階・視聴覚室

開館時間　午前 9 時 ～ 午後 7 時
休館日　毎週水曜・第２金曜・年末年始・特別整理期間
貸出　１人 10 冊 ２週間以内（うち雑誌は５冊まで）
　　１団体 50 冊 １ヶ月以内（うち雑誌は 25 冊まで）

＊＊ 伊勢図書館・休館日カレンダー ＊＊

２月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

３月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

「上映会」

《日時》２月 10 日（日）　午後１時 30 分～
《場所》２階・視聴覚室

『白 雪 姫』

雪のように白い肌を持つ白雪姫。ままはの女王は自分よりも美しい白雪姫を殺してしまおうとするのでした。
世界初の長編カラーアニメーションとなったディズニー版の名作を上映します！

〈アニメーション・日本語吹替〉　〈上映時間　81 分〉

＊ **おはなし会、あかちゃんえほんのじかん、上映会** は、申込不要です。どうぞお気軽にご参加ください！

こんにちは！伊勢ABちゃんです。
橋本紡著「図書館が、ここに。」は今月号から第２話です。２話は５回に分けて掲載する予定です。バックナンバーを読みたい方は、カウンターでお問い合わせくださいね！

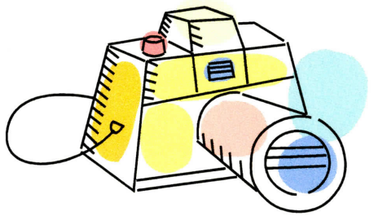
「Enemy Of Book」
－本の敵－

《日時》２月９日（土）～２月１９日（火）
《場所》２階・展示ホール
《内容》現在と未来の読者のために本の寿命について考えます。
合わせて汚破損本の展示を行います。

本のごあんない

〔一般書〕　写真集

三重県四日市工業地帯などを撮影した工場写真集、冬に温泉を楽しむ「スノーモンキー」、
偉大な写真家の一人、ロバート・キャパのファン待望の写文集など様々なジャンルを集めました。
心に残る一冊がみつかるかも…。　一度手にとってご覧ください。



◎　CORONA（石川直樹／著　青土社）
◎　スノーモンキー（岩合光昭／写真　岩合日出子／文　新潮社）
◎　ロバート・キャパ　ちょっとピンぼけ文豪にもなったキャパ
（ロバート・キャパ／著　マグナム・フォト東京支社／監修　クレオ）
◎　工場ディスカバリー（小林哲朗／著　アスペクト）
◎　村の記憶　（松原豊／著　月兎舎）

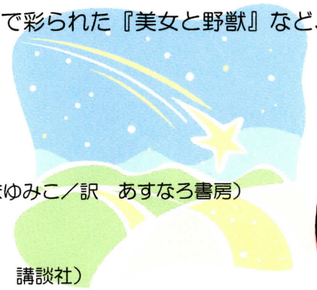
〔児童書〕　鬼は外！より、鬼はうち！？

節分に豆をまく習慣は古くからあり、鬼は怖いものの代表とされてきました。しかし、日本各地の民話や風習を見てみると、鬼は怖いものばかりではなく、臆病な鬼もいれば、病気や災いから守ってくれる鬼もいるようです。
今回は、そんないろいろな鬼に出会うことができる本を紹介します。

★ **かえるをのんだととさん　日本の昔話（日野十成／再話　斎藤隆夫／絵　福音館書店）**
★ **こぶとりたろう（たかどのほうこ／作　杉浦範茂／絵　童心社）**
★ **2月のえほん（長谷川康男／監修　PHP 研究所）**
★ **オニの生活図鑑　ヒサクニヒコの不思議図鑑1（ヒサクニヒコ／文・絵　国土社）**
★ **鬼の市（鳥野美知子／作　たごもりのりこ／絵　岩崎書店）**

〔ヤングアダルト〕　「恋愛小説を読んで恋愛力アップ！？」

恋のはじまりを描く５人の作家によるアンソロジーや、美しい絵で彩られた『美女と野獣』など、いろいろなタイプの恋愛に関する本をご紹介します。



【一般書】
●星に願いを、月に祈りを（中村航／著　小学館）
●あなたはそっとやってくる（ジャクリーン・ウッドソン／著　さくまゆみこ／訳　あすなろ書房）
【児童書】
●初恋リアル（香坂直、菅野雪虫、樫崎茜、片川優子、椰月美智子／[著]　講談社）
●メディエータ　ゴースト、好きになっちゃった（メグ・キャボット／作　代田亜香子／訳　理論社）
●美女と野獣（アーシュラ・ジョーンズ／文　サラ・ギブ／絵　石井睦美／訳　BL 出版）

★ 伊勢・小俣図書館のどちらかに所蔵がある本です。ご利用館にない場合は、予約ができます。

かすかに膨らむ草木の芽吹きや、水辺の凍てゆるむ風情が春の気配を知らせてくれる。
陰暦二月を如月と呼ぶのは中国での異称をそのまま用いたものであるが、
日本での「きさらぎ」という名の由来には諸説ある。
寒さがまだ残っており衣を更に着るので「衣更着」…
また、草木の芽が張り出す月であるから「草木張月」が転じたとする説もある。
風にも光にも植物にも季節の気配は織りこまれている。
人間の心が大自然に素直にふれたとき、そこから芸術が生まれる。

SOUL OF Ise Shunkei

ふるさとの風
如月

～ 魂の器 伊勢春慶 ～

海外で“japan”といえば漆器のこと。
マルコ・ポーロが著した『東方見聞録』の中で Zipangu（ジパング）の名称でヨーロッパに紹介された日本。
1867 年（慶応三年）のパリ万国博覧会あたりをきっかけに世界から Japan（漆器の国を意味する）と
呼ばれるようになった。

「伊勢春慶」―それはかつて伊勢を中心として大量に作られた工芸品ではない日常の漆器である。
春慶塗は天然の木目の美しさをそのまま生かした透明塗の一種で、和泉国堺の漆工春慶が創始した技法である事からその名がついたといわれる。岐阜県高山市の飛騨春慶、秋田県能代市の能代春慶、茨城県城里町の粟野春慶（水戸春慶）が日本三大春慶塗として広く知られている。

伊勢は全国からの神宮への参拝者を対象として様々な伝統産業が生まれた。伊勢春慶の初まりは『宇治山田市史』によると、室町時代 神宮の工匠が御造営の余材を受けて内職として始めたとしている。
伊勢春慶の多くは桧の板を素材とした頑丈な作りの箱物である。
木地に弁柄や食紅などで着色し柿渋で下塗りを重ね最後に透明な春慶漆を薄く施す。
伊勢春慶特有の赤褐色が鮮やかで漆の奥に木目が透けて見え素朴な風合いが生かされている。
底の隅には水漏れを防ぐためと食べ物が隅に残らないために“こくそ”と呼ばれる黒い目留めがみられ、
また底の裏に製造元の漆器店の印が押されているのも特徴の一つである。

～粗ナリト謂ヘドモ廉価ニテ堅固～

明治期の文書に記されているように上品さはないが頑丈で比較的安価な伊勢春慶は日用雑器として大量に生産され「伊勢国産漆器」のブランドとして定着、全国に出荷されていった。
しかし戦後漆の入手が困難になった事や職人不足、さらに高度成長期を迎えての生活の変化等の要因によるプラスチック製品の登場。伊勢春慶は暮らしの中で急速に行き場を失う。
長く続いた伝統産業は終止符を打つことになった。

河崎は「伊勢の台所」と呼ばれた町である。今も黒壁の蔵や商家が並び往時の面影がただよう。
かつて伊勢春慶の発信地でもあった河崎でふるさとの漆器を見直そうと動き出した人々がいる。
知識や技術、さらに経験を重ねた人々、そして何よりも伊勢春慶を愛し、魅了された人々が立ち上がったのである。
谷崎潤一郎は「陰翳礼讃」の中で日本人が光の描き出す陰翳をいかに愛でてきたか
その独特な感性について記している。
漆器も同様、薄暗い中でこそ美しさが映える陰翳礼讃の世界である。
しかし伊勢春慶は趣を異にして、明るい太陽の光に照らされ現代の生活の中でこそ生きる漆器である。

名も無き職人が作り日々の暮らしに溶け込み重宝に使われた漆器…。
その伝統の良さに現代の感覚を重ね新しく甦る。
伊勢春慶には古き良き時代に忘れ去られた私たちの魂が宿っているのかもしれない。

伊勢市史 第八巻 民俗編（伊勢市／編　伊勢市　L243／1／8）